

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 広島県地域公共交通協議会 生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統)の概要

協議会の構成員

- ・広島県 ・三次市(関係市代表) ・坂町(関係町代表)
- ・公益社団法人広島県バス協会 ・中国運輸局交通政策部長
- ・事業者(5者) ・利用者(4者) ・学識者(5者)

協議会の開催状況

2回(対面)、2回(書面審議)

【事業の目的・必要性】

広島県の乗合バスの輸送実績は、モータリゼーションの進展、人口減少、少子高齢化など、地域社会経済の変化に伴う利用者の減少により、昭和43年度をピークに年々減少し、ピーク時の約3分の1となっている。バス事業者の経営環境は大変厳しくなっており、事業の採算性悪化により、バス路線が廃止されるなど、住民の生活交通の維持・確保が困難となっている。一方で、住民の生活圏は広域化が進んでおり、各地域間を結ぶバス路線の必要性は一層高まっている。

県民の日常生活を維持するため、地域間幹線系統への支援を実施し、路線の確保維持を図ることは不可欠である。

【事業の区域】

- ・広島県全域

【事業の目標と効果】

生活交通路線として必要なバス路線のうち、本計画の系統について運行を3力年にわたって継続し、広域・幹線的路線を維持することを目指す。

地域間幹線バス路線を維持することにより、地域で生活する交通制約者の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。

広島県

令和7年度分

事業者数

系統数

車両減価償却費 車両数

15

52

40(11)

* 車両減価償却費車両数の()は、当該年度に購入した車両数(内数)

この1年間の 利用者・地域住民の意見の反映

○広島県地域公共交通協議会を開催し、利用者代表の意見を聴取。今後事業者、市町と連携し対応する。

※利用者等代表
広島県高等学校PTA連合会会長
広島県社会福祉協議会
広島消費者協会
広島県観光連盟

事業の適切性

○計画通り事業は適切に実施された

目標・効果達成状況

○アセスメント形式により、系統ごとに評価
ほとんどの項目について、「非常によい」または「概ね良い」となっているものの、系統によっては、各項目が「改善の余地がある」場合が見受けられる。また、事業者の課題意識も高まっており、今後、改善に向けて取り組んでいきたい。
「改善の余地がある」となっている系統については「維持手段」「PR」「住民理解」の項目が比較的多く選択されている。

今後の改善点

- 地域公共交通網形成計画に基づき、市町と共同しての再編の検討
- ダイヤの見直し改正・運行計画の見直し
- 利用実態に即したダイヤの見直し、系統再編
- 他の交通モードとの接続留意
- 貨客混載等他事業者との共創
- 自治体等との連携による地域住民へのPR強化
- バスのバス停への接近情報を反映させた経路検索の活用
- 分かりやすい時刻表や路線図によるPR
- 地域住民と連携した生活交通の維持
- 新たな決済システムの導入による利便性の向上

令和7年度 広島県における地域公共交通施策

広島県の地理的特徴

陸上交通

なだらかな中国山地等に、小規模な拠点地域や集落が、分散的に存在

海上交通

本土と近距離の瀬戸内海上に、離島や、架橋で結ばれた島が、広域的に存在（有人島33）

生活交通の課題

モータリゼーションの進展や、人口減少、少子化、産業構造の変化等により、利用者が減少し、事業者の経営が悪化

民間事業者路線の減便や廃止が相次ぎ、住民の生活に必要な生活交通の維持が困難化

市町による代替運行路線の増加により、市町財政における生活交通の負担額が増大

生活交通の再編

施策の体系

陸上交通と海上交通が相互に補完しあう、効率的で持続可能な生活交通体系の構築

移動活発化

デジタル技術を活用した地域で支える新しい交通サービスの社会実装への支援
・広島型MaaS推進事業

バス

広域的な民間事業者路線の維持

- ・地域間幹線系統補助（国庫補助）・・・52系統
- ・広域生活交通路線補助・・・39系統

市町等が運行する路線バスやデマンド交通の運行支援

- ・市町生活交通運行支援事業・・・347路線※R6年度

乗合バス事業者路線再編調査の支援

- ・乗合バス事業者路線の再編に係る計画策定経費への補助

航路

離島のナショナルミニマムの確保

- ・離島航路補助（国庫補助）・・・7航路

島しょ地域の暮らしや経済活動に不可欠な航路の将来にわたる安定的な運航の維持・確保

- ・生活航路維持改善事業・・・14航路

鉄軌道

三セク・井原鉄道の安定した運行の確保

- ・井原線鉄道基盤設備維持費補助金（県・福山市）

鉄道網を活用した地域交流の拡大等の取組を支援

- ・鉄道ネットワークを活かした中山間地域の魅力向上事業

事業実施と地域公共交通計画等との関連について

令和8年1月9日

協議会名：	広島県地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	広島県の乗合バスの輸送実績は、モータリゼーションの進展、人口減少、少子高齢化など、地域社会経済の変化に伴う利用者の減少により、昭和43年度をピークに年々減少し、ピーク時の約3分の1となっている。バス事業者の経営環境は大変厳しくなっており、事業の採算性悪化により、バス路線が廃止されるなど、住民の生活交通の維持・確保が困難となっている。 一方で、住民の生活圏は広域化が進んでおり、各地域間を結ぶバス路線の必要性は一層高まっている。 県民の日常生活を維持するため、地域間幹線系統への支援を実施し、路線の維持・確保を図ることは不可欠である。

補助対象事業者	事業概要		①前回（又は類似事業の）事業評価結果の反映状況	②事業実施の適切性	③目標・効果達成状況		④事業の今後の改善点									
			記載要領													
			・前回の事業評価における改善点について、今年度どのような反映をしたかを記載する。 ・昨年度で事業が完了している場合はその旨を記載する。 例：「～を行う」とした点については、●●を行った。など	【左側】 系統ごとの評価について、次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている B…一部計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間1～6本の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外） C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間7本以上の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外）	【右側】 左側の評価についてコメントを記載（左側の評価結果に関わらず、必ず記載すること） 記載例①：計画どおり事業は適切に実施された。 記載例②：災害により運航できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。	【左側（A・B・C評価）】 右側（アセスメント評価）の結果をもとに次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…各項目の平均値が1～2点 B…各項目の平均値が3点 C…各項目の平均値が4点 ※「アセスメント不能」の項目については判定の対象外	◎必ず記載すること ・改善点（事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載すること）やより適切な目標等について記載する。 ・当該年度で事業が完了した場合はその旨を記載する。									
系統名	運行区間	前回の【事業の今後の改善点】	反映状況	A・B・C	評価コメント	A・B・C	アセスメント									
							ル-ト	ダイヤ	整合性	バス競合	鉄道等競合	維持手段	PR	住民理解		
広島電鉄	湯来	五日市駅南口～杉並台団地～湯来口ツジ前	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。	系統の適切な計画について引き続き関係自治体と検討する。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	2	2	2	▲	2	2	2	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。
	三段峡	広島バスセンター～可部・加計～三段峡	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。	系統の適切な計画について引き続き関係自治体と検討する。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	3	1	1	1	2	2	2	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。
	三段峡	広島バスセンター～広島IC・戸河内IC～三段峡	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。	系統の適切な計画について引き続き関係自治体と検討する。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	3	1	1	1	2	2	2	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。
	琴谷	広島バスセンター～安佐営業所～琴谷車庫	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。	系統の適切な計画について引き続き関係自治体と検討する。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	2	2	2	2	2	2	2	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。
	津田	廿日市市役所前駅～津田	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。	系統の適切な計画について引き続き関係自治体と検討する。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	2	2	2	▲	2	2	2	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。
	四季が丘	広島バスセンター～市役所・田方ノストゥア～四季が丘	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。	系統の適切な計画について引き続き関係自治体と検討する。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	2	2	2	▲	2	2	2	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。
	熊野	広島バスセンター～向洋・矢野駅前・熊野団地～熊野萩原車庫前	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。	系統の適切な計画について引き続き関係自治体と検討する。	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	2	2	2	1	2	2	2	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、市町と共同して再編を検討する。
芸陽バス	瀬野・広島	宮の前～海田～広島バスセンター	（西条・瀬野－広島線、東雲線） サービス水準の維持と安定した運行のため、引き続き運転士の確保に努める。 2025年3月末より競合他社との間で乗車券システムが分かれ、一時的に定期券の共通利用できなくなるため、極力混乱の回避に努める。	運転士の確保は難しい状況だが、かろうじてサービス水準を維持できている。競合他社が乗車券システムの対応に積極的なため、定期券の共通利用は維持され混乱は最小限だった。	A	自車事故や激しい自然渋滞により3便、そのほか大雨による通行止めでやむを得ず1便運休したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	3	1	（西条・瀬野－広島線、東雲線） サービス水準の維持と安定した運行のため、引き続き運転士の確保に努める。 現在の乗車券システムが抱える大きな課題の解決に向けた動きがあり、広島市内のバス事業者や広島市とともに広報や利用促進に努める。
	東雲	宮の前～市役所前～広島バスセンター		競合他社が乗車券システムの対応に積極的なため、定期券の共通利用は維持され混乱は最小限だった。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	3	1	
	西条・広島	西条駅前～瀬野駅～広島バスセンター		運転士の確保が難しく、2025年5月より土日祝日において減便した。	A	運転士の体調不良により1便運休したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	3	1	
	西条・竹原	西条駅前～新庄～竹原駅	引き続き利用促進のため路線のPRに努める。また、竹原市より路線のあり方について新たな提案があったため、長期的な観点から協議を進める。	竹原市から路線バスの利用促進のため実証運行の提案があり、実施に向け協議を進めた（2025年12月下旬より1か月実施）。なお、運転士の確保が難しく2025年5月より土日祝日において減便した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	▲	2	3	1	（西条－竹原線、三原－竹原線） 今回の実証運行の結果やさらなる取り組みを通じ、竹原市と路線のあり方について協議を進める。また、継続課題である路線のPRや沿線の観光地を活用した企画乗車券の造成などにより利用促進に努める。
	竹原・三原	三原営業所～須波ハイツ～中通	沿線の観光地を活用した企画乗車券のPRやインバウンド需要の取り込みを図り、利用促進に努める。	既存の企画乗車券の利用は低下しつつある。竹原市から路線バスの利用促進のため実証運行の提案があり、実施に向け協議を進めた（2025年12月下旬より1か月実施）。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	3	1	
	沼田東	三原営業所～沼田東団地上・本郷駅・松江団地～三原営業所	これまで利用の中心だった団地の高齢化が進み、利用者が減少しつつある。本郷駅周辺の区画整理事業も開発が停滞しており、路線のあり方について協議が必要と考える。	利用は漸減しているが、路線のあり方についての協議を進めることができていない。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	3	2	1	1	▲	2	3	1	

補助対象事業者	事業概要		①前回（又は類似事業の）事業評価結果の反映状況		②事業実施の適切性		③目標・効果達成状況								④事業の今後の改善点	
			記載要領													
			・前回の事業評価における改善点について、今年度どのような反映をしたかを記載する。 ・昨年度で事業が完了している場合はその旨を記載する。 例：「～を行う」とした点については、●●を行った。など		【左側】 系統ごとの評価について、次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている B…一部計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間1～6本の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外） C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間7本以上の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外） 【右側】 左側の評価についてコメントを記載（左側の評価結果に関わらず、必ず記載すること） 記載例①：計画どおり事業は適切に実施された。 記載例②：災害により運航できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。		【左側（A・B・C評価）】 右側（アセスメント評価）の結果をもとに次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…各項目の平均値が1～2点 B…各項目の平均値が3点 C…各項目の平均値が4点 ※「アセスメント不能」の項目については判定の対象外 【右側（アセスメント評価）】 運行ルートやバス停の位置、運行ダイヤの状況、地域交通政策との整合性、他のバス路線との競合回避努力、鉄軌道との競合回避努力、路線維持の経済合理性、系統の広報・PR努力、沿線地域住民の認識・理解に関する各項目について、次のとおり評価する。 1 非常によい 2 概ね良い 3 改善の余地がある 4 改善の余地が多いにある ▲ アセスメント不能								◎必ず記載すること ・改善点（事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載すること）やより適切な目標等について記載する。 ・当該年度で事業が完了した場合はその旨を記載する。	
系統名	運行区間	前回の【事業の今後の改善点】	反映状況	A・B・C	評価コメント	A・B・C	アセスメント									
							ル	タ	整	バ	鉄	維	PR	住		
芸陽バス	白市・空港	萩 [※] 以北～白市駅・河内 [※] ター～広島空港	（白市駅－広島空港線） これまで、広島市内と広島空港を結ぶリムジンバス運行見合わせ時の代替路線の役割も担っていたが、2024年末よりリムジンバス自体が白市駅などへの臨時輸送をおこなうことになったため、今後はこれまで以上に平時における利用の定着を図っていく必要がある。広島国際空港（株）や広島県空港振興課と連携し、PRを強化したい。	リムジンバス自体による臨時輸送は実際に何度か実施されているものの、状況によっては当路線による代替輸送も引き続き実施している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	▲	1	2	1	（白市駅－広島空港線） 広島国際空港（株）と連携し、脆弱と言われる広島空港へのアクセス路線としてのPRと空港の活性化に努めるとともに、これまでの生活路線としての機能も維持していく。
	白市・空港	萩 [※] 以北～白市駅・元兼～広島空港			A	事故通行止めによりやむを得ず1便運休したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	▲	1	2	1	
	白市・空港	白市駅～河内インター～広島空港			A	事故通行止めによりやむを得ず1便運休したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	▲	1	2	1	
	豊栄・西条	豊栄～上戸野～西条駅前	（豊栄－西条線） 沿線より交通空白地解消に向けた協議の提案があり、引き続き東広島市などと今後の路線のあり方について協議を進める。	沿線の交通空白地解消に向け、2026年年初より当路線との乗り継ぎを想定した乗合タクシーの調査運行が実施されることとなった。なお、運転士の確保が難しく2025年5月より土日祝日において減便した。	A	他路線運行時の事故通行止めにより大幅に遅延し折り返しが間に合わずやむを得ず1便運休したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	▲	2	3	1	（豊栄－西条線） 沿線の過疎化や運転士不足により、今後路線の維持が難しくなると予想される。東広島市などと路線のあり方について協議を進めたい。
	豊栄・西条	豊栄～高美が丘・西高屋駅～西条駅前			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	▲	2	3	1	
	安芸南	海田市駅～矢野大浜 [※] がう安芸・矢野大浜～海田市駅	渋滞の頻発により、他の路線と比較してダイヤが乱れやすい状況が続いており、行政への要望を検討したい。なお、サービス水準の維持と安定した運行のため、引き続き運転士の確保に努める。	ダイヤの乱れは引き続き多発している。運転士の確保は難しい状況だが、かろうじてサービス水準を維持できている。	A	激しい自然渋滞により5便、そのほか大雨による交通障害でやむを得ず4便運休したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	2	1	1	1	1	3	1	渋滞の頻発により、他の路線と比較してダイヤが乱れやすい状況が続いており、行政への要望を検討したい。なお、サービス水準の維持と安定した運行のため、引き続き運転士の確保に努める。
	竹原・広島	竹原フェリー～竹原駅・河内IC～広島バスセンター	（竹原－広島線 高速バス「かぐや姫号」） ダイヤ改正により利用が極度に集中する便がなくなったため、竹原市などと協力しインバウンド需要の取り込みを強化し、さらなる利用者数の回復を目指す。	コロナ禍からの回復はそろそろ頭打ちという状況。インバウンド需要の取り込みに向けた施策を準備しているところである（2025年度中に実施予定）。	A	山陽道通行止めや出入口閉鎖により、計35便やむを得ず運休もしくは迂回したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	2	1	（竹原－広島線 高速バス「かぐや姫号」） 竹原市は人口減少が進み中心部にぎわいが薄れており、路線のPRや沿線の観光地を活用した企画乗車券の造成などにより地域の活性化を目指す。また、サービス水準の維持と安定した運行のため、引き続き運転士の確保に努める。
	竹原・広島	志海駅前～竹原駅・河内IC～広島バスセンター			A	山陽道通行止めにより、計5便やむを得ず運休もしくは迂回したが、これ以外については計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	2	1	

補助対象事業者	事業概要		①前回（又は類似事業の）事業評価結果の反映状況		②事業実施の適切性		③目標・効果達成状況										④事業の今後の改善点			
			記載要領																	
			・前回の事業評価における改善点について、今年度どのような反映をしたかを記載する。 ・昨年度で事業が完了している場合はその旨を記載する。 例：「～を行う」とした点については、●●を行った。など		【左側】 系統ごとの評価について、次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている B…一部計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間1～6本の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外） C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間7本以上の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外）		【右側】 左側の評価についてコメントを記載（左側の評価結果に関わらず、必ず記載すること） 記載例①：計画どおり事業は適切に実施された。 記載例②：災害により運航できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。		【左側（A・B・C評価）】 右側（アセスメント評価）の結果をもとに次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…各項目の平均値が1～2点 B…各項目の平均値が3点 C…各項目の平均値が4点 ※「アセスメント不能」の項目については判定の対象外		◎必ず記載すること ・改善点（事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載すること）やより適切な目標等について記載する。 ・当該年度で事業が完了した場合はその旨を記載する。									
系統名	運行区間	前回の【事業の今後の改善点】	反映状況	A・B・C	評価コメント	A・B・C	アセスメント													
							ルト	ダイヤ	整合性	バス競合	鉄道等競合	維持手段	PR	住民理解						
中国バス	福山・市系統	福山駅前～中国中央病院～市出張 所	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める	沿線自治体と連携し、2025年4月に実態に沿った運行時刻の 見直しを実施した。加えて、経費削減に取り組んだものの、経常損失額は1190万円ほど悪化した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	2	2	1	2	3	3	1	2	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める				
	福山・府中系統	目崎車庫～福山駅前	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める	沿線自治体と連携し、2025年4月に実態に沿った運行時刻の 見直しを実施した。加えて、経費削減に取り組んだものの、経常損失額は251万円ほど悪化した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	2	2	1	2	3	3	1	2	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める				
	尾道・甲山系統	尾道駅前～長江口・バイパス～甲山 営業所	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める	沿線自治体と連携し、2024年10月に実態に沿った運行時刻の 見直しを実施した。加えて、経費削減に取り組んだものの、経常損失額は1389万円ほど悪化した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	2	1	1	2	1	3	1	2	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める				
	尾道・市系統	尾道駅前～川上口・新尾道駅～市（御調高校前）	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める	沿線自治体と連携し、2024年10月に実態に沿った運行時刻の 見直しを実施した。加えて、経費削減に取り組んだものの、経常損失額は409万円ほど悪化した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	2	1	2	1	3	1	2	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める				
	甲山・三原系統	甲山営業所～林崎谷～三原駅前	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める	沿線自治体と連携し、2024年10月に実態に沿った運行時刻の 見直しを実施した。加えて、経費削減に取り組んだものの、経常損失額は160万円ほど悪化した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	2	2	1	2	1	3	1	2	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める				
	三原・広島空港系統	三原駅前～三原栈橋～広島空港	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める	引き続き沿線自治体と連携し、運行便数は維持しつつ、経費削減に取り組んだものの、経常損失額は78万円ほど悪化した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	2	1	1	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める				
	油木・福山系統	油木～道上～福山駅前	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める	沿線自治体と連携し、2025年4月に実態に沿った運行時刻の 見直しを実施した。加えて、経費削減に取り組んだものの、経常損失額は1729万円ほど悪化した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	2	1	1	1	3	1	1	引き続き沿線自治体と連携し、実態に沿った運行計画の見直しと運行経費の削減を図り収支改善に努める				
鞆鉄道	洗谷常石	福山駅前－洗谷－常石	今後、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、福山市と共同して再編を検討する。	フィード化を実施する前段として、既存系統の統合により効率化できないかを検討中。	A	計画どおり事業は適切に実施された	B	2	2	2	3	1	3	3	3	引き続き、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、福山市と共同して再編を検討する。				
	瀬戸千年橋	福山駅前－瀬戸－千年橋			A	計画どおり事業は適切に実施された	B	3	2	2	3	1	3	3	3					
	小立千年橋	福山駅前－小立－千年橋			A	計画どおり事業は適切に実施された	B	2	2	2	3	1	3	3	3					
	瀬戸常石	福山駅前－瀬戸－常石			A	計画どおり事業は適切に実施された	B	3	3	2	3	1	3	3	3					
	阿伏兔	福山駅前－瀬戸－阿伏兔			A	計画どおり事業は適切に実施された	B	3	3	2	3	1	3	3	3					
	福山内海	福山駅前－瀬戸－内海農協			A	計画どおり事業は適切に実施された	B	2	2	2	3	1	3	3	3					
備北交通	三城線	庄原駅～ジョイフル・上四十貫～三次駅前	・ICカードPASPYの廃止に伴う新乗車券システム（MOBIRYDAYS）を導入したが、2025年3月末の廃止までにMOBIRYDAYSの利用率を高める。	CM放映やチラシ或いはSNSを通して適宜大々的にPRを行うとともに、10カードでの支払いも可能にし、運賃8月からはMOBIRYDAYSでの車内チャージも構築し利便性と利用率の向上を図った 2025年4月1日からのダイヤ改正により格致高校經由便を更に増やし学生への利便性向上を目的として利用者増と増収に努めた（平日1.5回増とダイヤも利用し易いものに変更しサービスの向上を図った） また、土日祝のダイヤについても平日ダイヤの発時刻に統一し分かりやすい表示に努めた	A	計画通り事業は適切に実施された	A	2	1	1	1	1	1	1	2	引き続き関係自治体と連携し沿線施設等への更なるPR及び適切な運行回数、効率的なダイヤの見直しにより利用促進を図る				
本四バス開発	瀬戸田～因島線	瀬戸田港～内海造船・生口橋～土生港前	効率化を図るため、運行回数、運行時刻を検討する	利用状況に応じ、減便及び時刻改正を行った	A	計画通り事業は適切に実施された	A	1	1	1	▲	▲	1	1	1	令和8年度にて地域間幹線系統の対象外（運行回数・輸送量）				

補助対象事業者	事業概要		①前回（又は類似事業の）事業評価結果の反映状況		②事業実施の適切性		③目標・効果達成状況										④事業の今後の改善点	
			記載要領															
			・前回の事業評価における改善点について、今年度どのような反映をしたかを記載する。 ・昨年度で事業が完了している場合はその旨を記載する。 例：「～を行う」とした点については、●●を行った。など		【左側】 系統ごとの評価について、次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている B…一部計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間1～6本の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外） C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※年間7本以上の欠便がある（天災、道路事故等事業者の責任以外の理由による欠便は判定の対象外） 【右側】 左側の評価についてコメントを記載（左側の評価結果に関わらず、必ず記載すること） 記載例①：計画どおり事業は適切に実施された。 記載例②：災害により運航できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。		【左側（A・B・C評価）】 右側（アセスメント評価）の結果をもとに次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…各項目の平均値が1～2点 B…各項目の平均値が3点 C…各項目の平均値が4点 ※「アセスメント不能」の項目については判定の対象外 【右側（アセスメント評価）】 運行ルートやバス停の位置、運行ダイヤの状況、地域交通政策との整合性、他のバス路線との競合回避努力、鉄軌道との競合回避努力、路線維持の経済合理性、系統の広報・PR努力、沿線地域住民の認識・理解に関する各項目について、次のとおり評価する。 1 非常によい 2 概ね良い 3 改善の余地がある 4 改善の余地が多いにある ▲ アセスメント不能		◎必ず記載すること ・改善点（事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載すること）やより適切な目標等について記載する。 ・当該年度で事業が完了した場合はその旨を記載する。									
系統名	運行区間	前回の【事業の今後の改善点】									反映状況	A・B・C	評価コメント	A・B・C	アセスメント			
								ルト	ダイヤ	整合性	バス競合	鉄道等競合	維持手段	PR	住民理解			
JRバス中国	C2	西条駅～交差点～呉駅	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、イベント等が復活してきているため、開催される観光イベントや地域行事等については、引き続き、関係自治体と協力してアクセス情報をHP等で広報し、公共交通への転嫁を促すことで、恒常的なバス利用に繋げる。	令和6年度の2件に対し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が落ち着きを見せていることもあり、取り組み実績は3件だった。 ・2024年10月12日、13日 西条酒まつり 東広島市HP、当社HPに臨時便情報を掲載（西条～呉間他12便運行） ・2024年11月17日 ひがしひろしまメモリアルパレードによる臨時東広島市HP、当社HP（西条駅～中央図書館前間他28便運行） ・2025年7月19日 呉海上花火大会 当社HPに臨時便情報を掲載（呉～賀茂医療センター口間2便運行） ・その他広島大学等でのイベント開催時に臨時便や続行便を設定し、当社HPに運行情報を掲出。	A	今年度も計画通りの事業を適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	1	1	・引き続き関係自治体と連携し、観光イベント時の臨時便情報や、新しくなった乗車券システムの利用方の広報や、他の交通モードとの企画乗車券やデジタルチケットの発売、Google Mapなどへの継続したバス時刻情報を掲載し、バス利用促進を図ることで、恒常的なバス利用に繋げる。 ・運行ダイヤの「C109」の系統では利用者からの声として学校の仕業や職場の就業時間に合わせた改正を求められた。2026年3月に東広島市の兼広の交通結節点整備計画に合わせ大きく運行計画を変更する予定のため、変更時に調節を行う見込みである。 ・恒常的な利用増を目指すことでR6キロ当たり輸送人員から3%増加を見込み、収支率改善を図る。		
	C109	賀茂医療センター口～庚・交差点～呉駅	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、イベント等が復活してきているため、開催される観光イベントや地域行事等については、引き続き、関係自治体と協力してアクセス情報をHP等で広報し、公共交通への転嫁を促すことで、恒常的なバス利用に繋げる。		A	今年度も計画通りの事業を適切に実施された。	A	1	2	1	1	1	1	1	1			
	C161	西条駅～郷田～広島国際大学	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、イベント等が復活してきているため、開催される観光イベントや地域行事等については、引き続き、関係自治体と協力してアクセス情報をHP等で広報し、公共交通への転嫁を促すことで、恒常的なバス利用に繋げる。		A	今年度も計画通りの事業を適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	1	1			
	C164	西条駅～庚～広島国際大学	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、イベント等が復活してきているため、開催される観光イベントや地域行事等については、引き続き、関係自治体と協力してアクセス情報をHP等で広報し、公共交通への転嫁を促すことで、恒常的なバス利用に繋げる。		A	今年度も計画通りの事業を適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	1	1			
井笠バスカンパニー	井原・福山	井原～御領～福山	利用者からの要望及び井笠・福山バス路線連携協議会と連携して利用促進に取り組み、利用実態に沿ったダイヤの改善を行う。	バスロケーションシステムを活用した運行実態に沿った所要時分の全体的な見直しを実施し、定時性を向上させることで利用促進ならびに乗客逸走防止を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	2	3	1	1	3	2	2	3	利用者の要望や遅延データ、利用実態を集積すると同時に、鉄道との運行間隔調整も実施する。		
	篠坂・福山	篠坂～青葉台～福山	利用者からの要望及び井笠・福山バス路線連携協議会と連携して利用促進に取り組み、利用実態に沿ったダイヤの改善を行う。	バスロケーションシステムを活用した運行実態に沿った所要時分の全体的な見直しを実施し、定時性を向上させることで利用促進ならびに乗客逸走防止を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	2	1	2	1	1	2	2	利用者の要望や遅延データ、利用実態を集積し、お客様が利用しやすいダイヤ編成を行う。		
	中国中央病院	福山～市民病院～中国中央病院	自治体・市民病院・PASPYとの連携を検討し、更なる利便性、および効率等向上に向けた再編を検討。実績データ等に基づく遅延対策、他モード等との連携、および利用実態・ご要望に沿ったダイヤ編成。	バスロケーションシステムを活用した運行実態に沿った所要時分の全体的な見直しを実施し、定時性を向上させることで利用促進ならびに乗客逸走防止を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	2	2	1	3	1	2	2	2	利用者の要望や遅延データ、利用実態を集積し、お客様が利用しやすいダイヤ編成を行う。		
ささき観光	おおのハートバス（横断）	JR阿品駅～前空駅～鳴川	モビリーデイズ導入により、乗降データが拾えるようになり、路線検討の参考資料として活用している。また、地域行事へのイベント参加を初めて実施し、利用促進に繋がる取組を開始した、引き続き継続的な利用促進施策およびモビリーデイズの普及を図る。	ドライブレコーダーやモビリーデイズの乗降データを用いて区間ごとの利用者数を把握し、市と運行事業者で話し合いながら新ダイヤを作成している。ダイヤという商品を現行よりもよい物として利用促進を図る。今年度も、地域行事への参加を行い、利用促進に励んだ。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	1	1	令和6年10月よりダイヤ改正を実施しており、昨年度ベースで利用者が増加しているため、わかりやすく利用しやすいダイヤとなっていると考えている。 主な改善点は、運行間隔の均等化や經由地の集約による利便向上。 また、JRや広電電車の到着時刻を意識したダイヤ作成に努める。		
廿日市交通	佐方ルート	廿日市市役所前駅～佐方～廿日市市役所前駅	令和5年12月の路線再編を関係者と協働し、適切に実施を図る。また、再編した結果を継続的に検証し、引き続きより効率的な運行サービスの検討に努める。	JRとの接続改善や所要時分の見直しによる遅延防止、運行経路の決定、1周60分に設定することによるダイヤの改善などを事業者と話し合い、再編を行った。再編後検証として、利用者が月平均9.8%増となっており、良い再編ができています。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1	1	1	1	1	1	1	1	乗客に対する丁寧な対応や、地域住民からの問い合わせ、特に乗ったことがない方や久しぶりに乗る方からのお問い合わせに真摯に対応するなど、一人でも多くの方に利用いただけるように努める。 利用者数を来年度も増加させることを目標とする。		

補助対象事業者	事業概要		①前回（又は類似事業の）事業評価結果の反映状況		②事業実施の適切性		③目標・効果達成状況		④事業の今後の改善点	
			記載要領							
			・ 前回の事業評価における改善点について、今年度どのような反映をしたかを記載する。 ・ 昨年度で事業が完了している場合はその旨を記載する。 例：「～を行う」とした点については、●●を行った。など		【左側】 車両導入系統ごとの評価について、次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…計画に位置づけられたとおり、適切に導入されている B…一部計画に位置づけられたとおりに導入されない見込み ※対象車両の50%未満が計画どおり導入されていない（計画変更を行う場合は、判定の対象外） C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されない見込み ※対象車両の50%以上が計画どおり導入されていない（計画変更を行う場合は、判定の対象外） 【右側】 左側の評価についてコメントを記載（左側の評価結果に関わらず、必ず記載すること） 記載例①：計画どおり事業は適切に実施された。 記載例②：平成〇〇年〇月に導入する予定であったが、資金が捻出できなかったため、車両購入を見合わせる事となった。		【左側】 車両導入系統ごとの評価について、次のとおりA・B・Cの3段階で評価する。 A…各事業者において、ノンステップバス等の車両保有比率等について数値目標を設定しており、かつ達成される見込み B…各事業者において、ノンステップバス等の車両保有比率等について数値目標を設定しているが、一部目標どおり達成できない見込み ※対象車両の50%未満が計画どおり導入されていない C…数値目標が設定されていない、または目標どおり達成できない（対象車両の50%以上が計画どおり導入されていない）見込み 【右側】 左側の評価についてコメントを記載（左側の評価結果に関わらず、必ず記載すること） 記載例：平成〇〇年〇月末時点におけるノンステップバス保有比率は〇%であり、平成〇〇年までに〇%以上という目標に向けて計画どおり推移している。		◎必ず記載すること 改善点（事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載すること）やより適切な目標等について記載する。	
系統名	車種及び台数	前回の【事業の今後の改善点】	反映状況	A・B・C	評価コメント	A・B・C	評価コメント			
広島電鉄	湯来	新規 既存 ノンステップバス1両 ノンステップバス2両	国の設定する導入目標に向けノンステップバスの代替を進める。	新規でノンステップバス1両を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	数値目標は設定していないが、引き続き低床バスの導入を積極的に進める。	国の設定する導入目標に向けノンステップバスの代替を進める。	
	津田	新規 既存 ノンステップバス1両 ノンステップバス2両	国の設定する導入目標に向けノンステップバスの代替を進める。	新規でノンステップバス1両を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	数値目標は設定していないが、引き続き低床バスの導入を積極的に進める。	国の設定する導入目標に向けノンステップバスの代替を進める。	
芸陽バス	瀬野・広島、東雲	新規 既存 ノンステップ3両 ノンステップ2両	コロナ禍により設備投資を控えていた時期があり、車両更新のペースが以前より落ちている。今後、車両更新を進めるとあたり減価償却費の増加が見込まれるため、運賃改定等により収支を改善する予定だが、引き続き車両補助により負担軽減を図っていきたいと考えている。 なお、運転士不足による急な減便がないとは言えない状況であり、走行率低下のリスクは継続している。	前年度より購入車両が増加した一方、運転士不足により一部のエリアで2025年5月より土日祝日において減便したが、計画的に車両運用をおこない全ての車両において補助路線走行率50%以上を達成した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	（狭隘道路を走行可能な小型車両が必要なコミュニティバスおよび高速バスを除き、すべて低床車で運行しているため目標設定なし） 全便低床車で運行するようになってから10年近く経過し、都市、郊外問わず車椅子での利用は定着している。空港リムジンバスにおけるエレベーター付バス導入を契機とした研修の受講などを通じ、より障がい者に寄り添った案内等に努めたい。	コロナ禍の際は一時的に設備投資を控えていたが、今年度以降は毎年5台以上のペースで車両更新を実施する計画である。減価償却費の増加に対応するため引き続き運賃改定等による収支改善を図る予定だが、引き続き車両補助により負担軽減を図っていきたいと考えている。 なお、金融費用に対する補助は金利上昇のため上限に近づいており、今後継続して申請するかどうかは流動的である。 また、引き続き運転士不足による急な減便がないとは言えない状況であり、走行率低下のリスクは継続している。	
	西条・広島、白市・空港、豊栄・西条	新規 既存 ノンステップ1両 ノンステップ8両			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A			
	西条・竹原、竹原・三原、三原・本郷	新規 既存 ノンステップ1両 ノンステップ3両			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A			
中国バス	福山・府中系統	新規 ノンステップ2両			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	100%ノンステップバスです	利用実態に応じた運行回数の設定に伴う車両の減車に合わせて全体的な更新を図る。	
鞆鉄道	新川線	新規 既存 ノンステップ1両 ワンステップ1両 ノンステップ2両 ワンステップ1両	引き続き、補助制度を活用した低床車両の導入を促進したい。	ノンステップバス1両、ワンステップバス1両を導入した	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	対象系統の低床（ワンステップ）化は完了している。	引き続き、補助制度を活用した低床車両の導入を促進したい。	
江田島バス	4主系統（小用～大柿高校前）	既存 ノンステップ1両	引き続き、江田島市と連携しながら計画的にノンステップバスを導入し、利用促進を図る。	令和6年10月及び令和7年9月に中型ノンステップバスを各1両ずつ、計2両を導入し、老朽化した小型ノンステップバス2両を減車した。このことによるノンステップバスの運行率に変化はないが、利用者の利便性向上及び利用促進に寄与している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	令和7年9月末時点におけるノンステップバス保有比率は約71%であるが、令和7年6月27日に公表された第4次バリアフリー整備目標の最終とりまとめに示されている「令和12年度末までに90%以上」という新たな目標達成に向けて計画的にノンステップバスを導入する。	引き続き、江田島市と連携しながら計画的にノンステップバスを導入し、利用促進を図る。	
	14主系統（小用～深江）									
JRバス中国	西条～交叉点～呉 賀茂医療センター口～庚・交叉点～呉 西条～郷田～広島国際大学 西条～庚～広島国際大学	新規 既存 ノンステップ0両 ノンステップ6両	補助制度を活用した低床車両の導入を推進する。	補助制度を活用した低床車両の導入を検討した。	A	今年度は車両導入の計画はなかった。	A	令和7年9月末時点における低床車両の保有率は100%である。	車齢も考慮しつつ、計画的に補助制度を活用した低床車両の導入を推進する。	
井笠バス	福山～市民病院～中国中央病院	既存 ノンステップ2両	今後も計画的に車両の更新を行っていく	車両更新を見送った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	令和7年9月末時点におけるノンステップバス保有比率は83%と昨年と変わらずであり、令和8年までに100%の目標に向けて、計画的に更新を行っていく。	今後も計画的に車両の更新を行っていく	